

北区防災訓練に参加して

平成24年11月1日
幌北連合町内会会長 永野拓也

1 はじめに

(1) 幌北地区の特徴

- ・北大、藤女子大などの学生が多い。
- ・留学生やその家族など外国人が多い。
- ・マンションなどの共同住宅、特に賃貸の居住者が多い。
- ・15～64歳の生産年齢人口の比率が高い
- ・共同住宅居住者のうち町内会活動に参加する人は多くはない。
地域活動担い手の高齢化
- ・学生が地域交流などのほか今回の防災訓練にも尽力
これらに鉄西地区と共通する点あり

【参考1】鉄西・幌北地区の人口等【住民基本台帳ベース】平成24年10月1日現在

	全市	鉄西地区		幌北地区	
	値	値	全市の順位	値	全市の順位
人口(人)	1,921,069	6,203		20,102	
世帯数	992,307	4,258		14,974	
人口/世帯数	1.94	1.46		1.34	
平均年齢	45.0歳	40.6歳	2番目に小	40.0歳	最小
生産年齢人口(15～64歳)の割合	66.7%	77.3%	4番目に大	78.7%	最大
老齢人口(65歳以上)の割合	21.5%	14.6%	最小	15.0%	2番目に小
65～74歳	11.3%	7.3%	2番目に小	6.9%	最小
75歳以上	10.2%	7.3%	2番目に小	8.1%	5番目に小

【参考2】区別世帯数【国勢調査】平成22年10月1日現在

	全市	鉄西地区	幌北地区
住宅に住む一般世帯の数	879,156	4,835	16,507
一戸建・長屋建の世帯	326,036(37.1%)	132(2.7%)	1,138(6.9%)
共同住宅の世帯	551,550(62.7%)	4,694(97.1%)	15,332(92.9%)
その他の世帯	1,471(0.2%)	9(0.2%)	37(0.2%)
持ち家の世帯	425,249(48.4%)	1,399(28.9%)	2,444(14.8%)

(2) 今回の訓練の特徴

- ・一連のプロセスで構成する訓練
- ・2連町の合同実施
- ・避難場所訓練としては知識習得や体感を重視した入門編

2 プロセス別の感想等

(1) 前提

重要要素

- ・「ヒト」: 意識、つながり、体制など
 - ・「情報」: リスク、想定被害、対策など
 - ・「モノ」: 非常時に備えた食料などの物資、資機材など
- 課題につながる感想・事実関係などを伝達

(2) 幌北連町として目指す方向の確認

- ・地域・個人として防災上の知識・ノウハウの継続的な醸成
- ・PTAなど関係団体との連携の強化
- ・住民による地域活動への理解の促進

(3) 両連合町内会の事前打ち合わせ

- ・代表者数名による事前連絡会議 情報交換、方針の確認など
- ・連携体制構築：訓練内容の早期議論が必要との共通認識 訓練項目アンケート

(4) 「DIG」と「避難場所運営研修」

- ・ワークショップ形式で基礎情報の共有・議論 考える視点
- ・地域のリーダーとして尽力する前提：自分と家族の身を守る備え
- ・高齢者支援：日頃の見守り活動の延長線上での災害時の安全確保
～勤労世代や学生などの若い力

【共同住宅など】

- ・地震に伴う停電時
電話、電力作動の暖房等の使用不可、ポンプが動かずに水道が出ない可能性
- ・物資の確保（家庭での3日分の水や食料などの備えなど）
- ・地下などの水道水の受水タンク 停電時にも内部の水を取り出せる可能性
- ・マンション管理組合の防災対策・地震後役割分担 町内会役員を交えた議論は稀

(5) 意見交換会

- ・地域意見を訓練計画に反映させる機会
- ・地域リーダー向けの訓練：バケツリレーより他を優先
- ・勤労世代に配慮した夜間からの参加も

(6) 幌北ふるさと夏祭り

- ・防災展示
- ・学生：防災クイズ、新聞紙でのスリッパづくりなど 子どもたちが楽しく学習

(7) 訓練当日（事前に「訓練説明会」あり。）

勤労世代のPTA役員も参加

ア 屋外訓練

- ・消火器の使用、簡易な担架づくりなど実践的な内容
- ・数年後に失念する懸念

イ 班別の屋内訓練

本部	避難者管理班	：名簿記載事項
総務班	食料班	：水、燃料
情報班	物資班	：リアカー、ダンボール等の確保（備え）
施設管理班		

ウ 防災展示

エ 宿泊訓練

- 視覚：照明の確保・工夫、電力確保
- 聴覚：足音、話し声
- 触覚：ダンボールのクッション性、保温性
温湿度管理～暖房燃料、保温性の高い寝袋、風邪・インフルエンザ
- 味覚：非常食、長期生活時のし好品
- 嗅覚：長期生活：トイレ、生活臭

(8) 訓練振り返り会

3 その他

- ・言葉が通じない外国人対応（災害時要援護者）